

(再開 午前10時45分)

議長 (勝山 正)

休憩前に引き続き会議を開きます。

1 番 関 達夫 議員。

(「はい、議長。1番。」の声あり)

(1 番 関 達夫 議員 登壇)

1. 令和5年度事業の今とこれから

1 番 関 達夫 議員

それでは、議長から発言を許されましたので、令和5年12月第4回木島平村議会定例会行政事務一般質問通告書に基づき、させていただきます。

時期は既に12月、年末年始を控えてですね、安心して過ごせるように、火の用心に心掛けたいと思っております。消防団の方々のみにはお願いするのではなくて、この場にいる皆さん、あらゆる場面で住民の皆様へ火災予防等々、災害発生しないように、啓発をしていきたいと思っております。一地区を代表するものとしてそんなことを思ったりしております。まさに一筆啓上火の用心であります。

それでは質問であります、「令和5年度事業のこれから」ということでお願いをしたいと思っております。

令和5年度の予算は、一般会計特別会計9会計、合計で前年より1億8,000万円余増の59億4,600万円ということでスタートしております。それは、中学校の整備などインフラにかかる費用がですね、多くなっているというようなことでの数字ということになります。

今後も、上下水道の整備等々のインフラの整備が必要になってくるわけでありましてけれども、大変になることが予想されるかもしれません。注意が必要と思っております。

予算は村民の生活と福祉の向上、経済の安定のために厳正に執行されなくてはならないものと思っております。これは納税者の願いであるわけでありまして。コロナ感染症からの脱出を行い、村に爽やかな北風以上の風を吹かせなければいけないと、このように私は思っております。

先に8月までの事業の進捗状況等々を各課の方からお聞きいたしました。冬近し時ですね、屋外でのハード事業は既にできにくくなっております。ソフト事業を含め、現状も村長は各課とレビューをもとにして、7次の総合振興計画にどのように生かしていくか、お伺いをしたいと思います。

一つ目でありまして、7月に開催されましたコミュニティ・スクール、大変大勢の方が参加されました。久しぶりの開催で評価も良とされていると思っております。私も子供たちの今を教えていただき、家庭での学習の大切さ、PTA、地域で子供たちを見守り、育て、皆で村の教育環境を共有することが大事であるというふうに学ばせていただきました。

村では、民生課の子育て包括支援センター、子育て支援課の子育て支援室、ちょっと名前がいろいろでございますけれども、それぞれやることは違うかと思っておりますが、それぞれ各課の連携はいかがなものかということをお聞きしたいと思います。

また、村長は「子育ては金銭的な面だけではなく、環境の整備が人を増やすことに繋がる」ということで言われていました。今は、総務課所管の少子化対策推進部会において、色々対策を考えていらっしゃると思いますが、その成果についてお伺いしたいと思います。

よろしく申し上げます。

二つ目でありまして、ふるさと納税は30%の返礼とシステム管理料等々を除き、計画では約5,000万円ほどを予定すると、こんなようなことでございます。学校関係で1,360万円、その他で1,200万円ほどを見込んでいらっしゃるということで、昨日も担当の方からご説明があったとおりでありますが、3月末じゃなくて12月末で私は目標に達するかというようなことを書きましたけれども、推移について、改めてお伺いしたいと思います。

農業者の皆さんは、それぞれ村内の農産物に期待して納税される方々に、ますますお米を生産していただきたいと私は思います。今年は天候が悪く、米の品質と量に悩まされた生産者の方が多くいら

っしゃいます。品質保持のためにそれぞれ対策が行われてきたのだと思いますけれども、村は今後もJA、農業農村支援センターなどと協力して、特A産地を保持していただきたい。そのことが生産農家の支援になると私は思います。

また、土地改良基盤整備など重複して現行の補助金交付金を使えませんけれども、振興公社に支援いただくことにより、公社が遊休農地に手を加え、利用価値を上げるようなことを考えていただけないかどうかお聞きしたいと思います。

先ほど言った1,200万円の中に800万円公社へということであってあるわけでありましてけれども、このことはですね、こういうことをすることは、納税される方に説明がつくのではないかなと思いますので、お考えをお聞きしたいと思います。

三つ目ではありますが、「日本一短い手紙」って皆さんご存知かと思いますが、こんなのが載っております。「田んぼが黄色くみのったよ。いねかりでつかれているのに、なぜそんなにうれしい顔してるの」と、このような作品が載っておりました。よく表現されているなど感心したところでもあります。

こういった作品は手提袋などのデザインによって、採用され目にされることが多くあるかと思えます。既に30年ほどこういう事業を経過されているということでもあります。

当村では第6回ふう太の杜文学賞の発表があり、五十数点の応募があったとお聞きしておりますけれども、常田富士男さんとの関わりで始まった文学賞であります。木島平が誇れる無形の文化財であると思えます。これからも大きく発展していただきたいと思えます。

丸岡町のように文学の村になればいいと思えますが、村長の思いをお聞かせいただきたいと思えます。

また、常田さんと延長線上にあろうかと思えますが、郷の家はどうなっているかと、ちょっと見てまいりました。村も手を施すことを止め、朽ちていくことを待っているように見えました。このままではこの冬はどういうふうになるか大変心配であります。

郷の家と文学賞には、古き歴史と文化の香りを感じ、村の豊かさを表現する貴重なツールと私は捉えております。温泉も復活します。馬曲地区にある貴重な文化財として建物を修繕、保存すべきと考えますが、いかがでしょうか。本年度の予算に計上してごさいませんが、対応を期したいと思えます。

四つ目ではありますが、村は奨学金貸付基金条例、規則等設けてですね、向学心に燃える若人の成長と未来を願い、その希望を叶えるために子育ての村として後押しを行っております。貸出し規則等々もあるわけでごさいますが、会計事務と実際と離れているのではないかと、整合性があるかどうか、今年度の予算の執行状況はどうなのでしょう。また、未返済の状況と遅延利息の徴収状況、予算決済を拝読しても、今どれだけの貸付残高があるか分かりません。この事業について詳細をお聞きしたいと思えますが、よろしくお願いたします。

議長（勝山 正）

日墓村長。

（村長「日墓正博」登壇）

村長（日墓正博）

「令和5年の事業、それをまた第7次の総合振興計画にどう生かしていくか」ということでもあります。

少子化、高齢化などの課題は、従来に増して大きな課題になってきていると考えております。さらに、地球温暖化対策やデジタル化など新たな課題もあります。

今行っているハード・ソフト事業を点検する中で充実させるものは充実し、必要なものは新たな取組として第7次の総合振興計画にも生かしていきたいと考えております。

それぞれのご質問について、担当課長に答弁をさせます。

議長（勝山 正）

山寄民生課長。

（民生課長「山寄真澄」登壇）

民生課長（山寄真澄）

それでは、私の方からお話がありました「子育て世代包括支援センターについて」お答えいたします。

村では、民生課健康福祉係で所管しております子育て世代包括支援センターを、妊娠期から子育て期、村では18歳までとなりますが、切れ目なく支援するため、令和2年度末に設置しました。

妊娠中の全ての妊婦さんを対象に、面談をさせていただくほか、必要な方には継続的な支援を行います。また、出産前後には必要に応じて医療機関との連絡調整を行うほか、子育て中もご自宅に訪問し、お子さんの様子の確認やお母さんの産後のケアについてのアドバイスをを行い、育児への不安のある場合は継続的に相談に応じています。また、保育園や小・中学校に関する相談にも応じています。

センターでは、定期的にケース進行会議を行いながら、保健師などのほか、教育委員会子育て支援課から、家庭児童相談員、子育て支援コーディネーターの出席により、情報共有を図っているほか、困難事例の検討や、支援状況の確認を行いながら、一人一人に合った支援方法などを検討しています。

議長（勝山 正）

島崎子育て支援課長。

（子育て支援課長「島崎かおり」登壇）

子育て支援課長（島崎かおり）

それでは、私の方から「子育て支援室」と「④の奨学資金の件について」お答えをさせていただきます。

まず子育て支援室についてですが、子育て支援室は、おひさま保育園に併設しており、平日昼間の未就園の親子の遊び場や交流の場として開放し、子育て支援コーディネーターが常駐し、子育ての悩みや相談にも応じています。

子育てコーディネーターは、子育て世代包括センターの一員でもあり、定期的にケース会議に出席し、情報交換をするほか、保護者の希望があれば、ケースごと適切な機関への繋ぎも行っていきます。

また、子育て支援室には月1回、保健師が訪問するなど、相互に連携し、相談しやすい環境作りに努めています。

つづきまして、村の奨学資金貸付事業について、今年度の予算執行状況ほか、事業の詳細についてお答えします。

奨学資金貸付事業特別会計ですが、歳入の内容は、奨学金の償還金と一般会計からの繰入金を財源としております。また、歳出の内容は、奨学金の貸付金で、今年度の予算額は528万1千円です。

貸付金は年4回に分けて貸付けを行っており、今年度の貸付者は6名で総額288万円を貸付予定としております。

また、償還金については、毎月、半年に一度、年に一度のいずれかの返済方法により、現年分として18名、総額400万9,600円の返済予定です。滞納分につきましては、対象者が3名で、令和5年度当初で残額が219万7千円となっています。11月30日現在、14万円が返済済みの状況です。いずれの方も、月々の返済額を決めて返済いただいている状況です。

また、延滞利息の徴収状況ですが、運用当初から貸付金を最優先に返済していただいております。徴収はしてきておりません。未返済金については今後も返済を促し、回収に努めていきたいと思っております。

議長（勝山 正）

高木生涯学習課長。

（生涯学習課長「高木良男」登壇）

生涯学習課長（高木良男）

それでは、私の方から関 議員の3点目のご質問について答弁をさせていただきます。

関 議員におかれましては、福井県丸岡町のように文学の村になるよう村長の思いを尋ねられておりますことが1点、それと、ふう太の文学賞については、村、それから教育委員会共に後援団体であるということで、主催ではありませんので、この2点を申し上げまして事務担当の立場からすれば、ふう太の文学賞の事業についての直接の評価については、答弁を差し控えさせていただきますと思います。

そういったものを前提にしながら答弁をさせていただきますが、ご案内のとおり、福井県丸岡町は町ゆかりの徳川家康の家臣団の重責を担っておりました本多作左衛門重次、この方が陣中から妻に宛てた短い手紙、先ほど冒頭で関 議員おっしゃっておられましたとおり「一筆啓上 火の用心 おせん泣かすな 馬肥やせ」こういった結びのお手紙でございます。この「馬肥やせ」というのは意味的には「戦時中の大変な重要な武器である馬の世話を怠るな」とこういった意味が込められているというふうに承知をしております。この碑が丸岡城にあります。

丸岡町では、この碑をヒントに日本で一番短い手紙文を再現し、手紙文化の復権を目指すということで、平成5年から毎年テーマを定めて「一筆啓上賞」として作品を募集し、日本全国、今では海外から応募が寄せられているものと承知をしているところでございます。

一方、本村の「ふう太の文学賞」は、本村出身でまんが日本昔話の語り手、亡常田富士男さんと馬曲温泉「郷の家」を中心に村芝居を通じて活動をとともにされてきた「農民芸術ふう太の杜」の皆さんが、平成30年から開催をされてきているもので、木島平を愛した常田さんの思いを受け継ぎ、語りで表現する文学作品を全国から募集をされています。

この文学賞は、「創作昔ばなし」と「随筆」の二つに分かれておりまして、随筆は毎回テーマが異なりますが、その根底に流れているものは、古き良き農村の暮らしであるかと思えます。

そんなことから、いつの時代になっても普遍的に変わらない文化を残し、継承していくことは必要ですし、村としても、この文学賞事業については、例年に変わらない支援を今後も継続してまいります。

議長（勝山 正）

本山産業企画室長。

（産業企画室長「本山 等」登壇）

産業企画室長（本山 等）

私からは「郷の家の管理と今後の方針」についてお答えします。

郷の家については、茅葺屋根の葺き替えに多額の費用を要することが課題となっており、公共施設総合管理計画における郷の家の方針を「民間譲渡」と定めています。この郷の家の現状と今後の施設管理についてお答えをいたします。

郷の家の管理については、4月から11月末まで施設管理を委託して一般に開放し、冬期間は一般開放せず、屋根の雪下ろしなど村が直接管理をしています。

今後の管理方針ですが、郷の家の運営事業者を公募し、民間活力による郷の家の利活用を図りたいと考えております。

これは村の公共施設総合管理計画における郷の家の方針を民間譲渡としていること、それと、郷の家を取り巻く状況として、先般行った馬曲温泉運営事業者、公募プロポーザルへの参加事業者から郷

の家の魅力を生かした利活用を図りたい旨の提案があり、少なからず郷の家の利活用を希望する事業者がいることから、公募をするものです。

今後、郷の家の運営事業者公募に向けた事務を進めてまいります。

議長（勝山 正）

丸山総務課長。

（総務課長「丸山寛人」登壇）

総務課長（丸山寛人）

それでは、私の方から「少子化対策推進部会の関係」、それから「ふるさと納税の関係」についてお答えします。なお、昨日の答弁と重複すると存じますが、よろしくお願いします。

まず、少子化対策推進部会の状況については、昨日のご質問の答弁でお答えしたとおりです。

これまでの検討の中では、未婚の若者世代向けには、単身者から新婚世帯用の賃貸集合住宅の建設促進など、それから、既婚者向けには子育て世帯が使いやすい住宅建築補助や住宅取得後の経済負担の軽減が挙げられています。また、地域活動の負担軽減も挙げられている状況でございます。

少子化対策については、短期間ですぐ効果が期待できるものではないため、長期的視野に立って取り組む必要があると考えています。

既存事業との整合性を図り、事業化に向けて検討を進め、早期に事業が実施必要と考えられる事業については令和6年度予算、そのほかについては、第7次総合振興計画に位置づけてまいる予定でございます。

つぎに、ふるさと納税についても昨日のご質問で答弁しておりますが、令和5年度のふるさと納税額については、11月末現在2,585万9千円で、対前年比69%の状況でございます。なお、ふるさと納税額については、令和2年度以降減少傾向にある状況です。

令和5年度予算では5,000万円を見込んでおり、今後一層の事業推進が必要と考えています。

なお、令和5年度では、議員からもあったとおり、産業振興として農地活用推進事業の農業振興公社運営補助金の財源として充当し、予算化をしております。

ふるさと納税については寄付金条例で、納税の寄付項目及び用途を位置づけております。

遊休農地対策として議員ご指摘のとおり、農業振興公社への運営補助の財源とすることで対策に繋がる部分もあると考えております。

（関 達夫 議員 挙手）

議長（勝山 正）

関 達夫 議員。

再質問

1番 関 達夫 議員

それでは再質問させていただきます。

上からということでございます。

「コミュニティ・スクール、子育ての関係」であります。コミュニティ・スクールは昨年までコロナどうのこうので開催できなかったわけですが、久々の開催ということで、先ほど申し上げたとおり多くの方々がお集まりでありました。

先と同僚議員の質問等々でもこのことは触れられておりましたけれども、今後も、地域で子供を育てるということの重要性に鑑み、スクール運営委員会等もあるようでございますけれども、どのように発展させ、実のあるものとされていくのか、お考えをお聞かせいただければと思います。

このことは何回も1年に開催できるわけではないと思います。スクールの内容などかみ砕いて、ど

う発展させていくのか、そして、やったことについてどうやって広報していくのかというようなことも必要なと思います。今後のあり方についてお聞きしたいと思います。

また都度都度、東京大学の先生がお見えになるのですが、主体はあくまでも地元の子供たち、親御さん、地域の人達ということでございます。大学の先生も大事なんでしょうけれども、そういったことを、私は運営の中ではもっともっと身近な人がいろいろな意見を言って話し合っていてやっていくのが大事じゃないかなと思っています。

いずれにしても運営委員会でこれから、どんな形で進められていくのか、ちょっとお聞きしたいと思います。よろしくお願ひします。

議長（勝山 正）

高木生涯学習課長。

（生涯学習課長「高木良男」登壇）

生涯学習課長（高木良男）

「学校運営協議会の関係、コミュニティ・スクール兼ねて」ということでご質問を頂戴しております。

学校運営協議会は、学校の基本計画、これは年度当初でありますけれども、学校運営計画が小学校・中学校から出まして、それに対して年度末にその学校運営計画のとおり事業が進行したかどうかをチェックする機能もございます。

学校運営協議会の今既存の課題として、そのチェック機能がなかなか専門的な見地が入らない状況でどういうふうに評価するかというのはやはり課題となっておりますので、今後、学校運営協議会の中で学校の評価をどのようにしていくのかというのが一つの課題であります。

そのご指摘のように、子供たちの考え方をどういうふうに学校運営協議会、これからの村づくりに反映させるかという点でございますけれども、先月から今月にかけて教育委員会、教育長の方で中学生、それと小学校6年生に対して対話集会と申しますか、そういったものを開催をしております。教育委員会の方で子供たちの方から直接話を聞く機会を始めたということで、これは大きな一つのターニングポイントになるのかなと考えております。

協議会として、コミュニティ・スクールで今後どういったことをやっていくのかということについては、やはり課題の抽出が重要なことだと思いますので、その課題をどういうふうに情報共有をしてそれを次回のコミュニティ・スクール研修会の方に反映させていくかという、こういった流れになるかと考えておりますので、ご理解の方よろしくお願ひしたいと思います。

（関 達夫 議員 挙手）

議長（勝山 正）

関 達夫 議員。

再質問

1番 関 達夫 議員

昨日も江田議員の方から子供議会というような話もございました。いずれにせよ私共も力になりたいと、こんなように思います。いろいろな場面場面を考えて、子育ての村にしていっていただきたいと思っておりますので、お願ひいたします。

それと、それからであります。今の項目の中で、推進部会ということでもありますけれども、3月の村長のところには「プロジェクトチームを発足し」とあって、5月になると今度は「対策推進部会」と、こんなようなふうに名前を変えられて、それぞれ大変苦労されて対策を打ってられるのかなと思ったりしてるところでありますけれども、その中で先ほど、物についてのいろいろとご回答があり

ました。賃貸住宅とか、いろんなことを、住宅補助等々お聞きしたのですけれども、そのことによって、少子化の対策の具体策というのは、この推進部会等々で見えてきているのでしょうか。物だけではなくて、もっと若い人にここに住んで、ここで子育てをしていく、そういった何かもうちょっと具体的な案が、提案がほしいなと私は思いました。

今年は1年に20人ほどしか出生がなかったということでもあります。あと10年15年で、保育園、小学校、中学校、存続できるかどうかということも考えていかなければならないかと、こんなような厳しい現実がくると思います。

そんなことで、対策部会では、先ほど聞いたようなこと以外に、もうちょっと突っ込んだといえますか、対策をお考えかどうか、そのことについてお聞きしたいと思いますが、お願いいたします。

議長（勝山 正）

丸山総務課長。

（総務課長「丸山寛人」登壇）

総務課長（丸山寛人）

それでは、ご質問にお答えしたいと思います。

昨日も一部ご説明させていただきましたが、まずプロジェクトチームにつきましては、4月以降各係長、関係係長を中心に対策推進部会ということで、組織を総務課の方の所管として進めてまいります。これについては総務課、民生課、産業企画室、建設課、子育て支援課、生涯学習課という関係の職員で構成してございます。

この中で、今ご指摘ございましたハードの部分という形になりますが、4月以降会議を進める中で、やはり対象の方の考えなり意見を聞く必要があるだろうということで、25歳以上44歳以下の方のアンケートを実施してございます。そこから出た意見として多かったのが、いわゆる住宅環境の整備、それから地域活動の負担軽減だとか、そういったご意見が寄せられております。

それを踏まえて今回の答弁としては、ハード部門の住宅を述べさせていただいたという形になりますが、ソフト部分についても今後の中でどういった支援ができるか、対策が打てるかというのは検討が必要だろうと思います。ただ、当事者と想定される方から多かった意見として対策を計画しているということでございますので、よろしく申し上げます。

（関 達夫 議員 挙手）

議長（勝山 正）

関 達夫 議員。

再質問

1番 関 達夫 議員

いずれにしても推進部会で、みんなで魅力ある村づくりということをお考えいただきたいと思っています。

それと1点、ちょっとお聞きしたいんですけども、今お聞きする中で思いついたのですが、地域活動の負担軽減とおっしゃられたのですが、これはどんなようなことを指すのでしょうか。ちょっとお聞きしたいと思っています。

議長（勝山 正）

丸山総務課長。

（総務課長「丸山寛人」登壇）

総務課長（丸山寛人）

はい、お答えします。昨日もお答えしておりますが、地域活動そのものについては、いわゆる地区の行事、それからお祭り、祭典団といったもの、それから消防団活動、そういったものがいわゆる対象と思われる世代、個人の方から意見として、負担に感じているという意見が上がっているという状況です。

（関 達夫 議員 挙手）

議長（勝山 正）

関 達夫 議員。

再質問

1番 関 達夫 議員

確かに若い人からすると、そういったことが負担になるかと大変思います。

その中で今ちょっとお聞きした消防団活動について、このことのアンケートの中ではどの程度なものが占めているのか、もしわかったら教えていただきたいと思います。

議長（勝山 正）

丸山総務課長。

（総務課長「丸山寛人」登壇）

総務課長（丸山寛人）

今「消防団活動」の話が出ました。これについては以前から消防団活動の負担軽減、そういったものは議会の中でもご指摘、お話いただいているところでございます。

今回のアンケートの中では自由記載、意見を述べるところがございまして、その中で何人の方がそういったものを挙げていると、それは消防団に限らず、祭典団、それから地区の行事、そういったものも当然です。ただ、これがどの程度の割合かという形になりますと、いわゆるアンケートを回答して何も記載されてない方も当然いますので、その辺の数については、多いというレベルではなくて、そういった声があったというふうに認識しております。

（関 達夫 議員 挙手）

議長（勝山 正）

関 達夫 議員。

再質問

1番 関 達夫 議員

お願いします。

推進部会でもお考えになられているかどうか、お聞きしたいのですけれども、少子化対策の中の、ちょっとずれるかもしれませんが、少子化対策という中で、移住体験ツアーとか、いろいろそういったものを検討されているかどうか。そういったもの夏やろうとして終わっちゃったっていう経過があるのですが、その後の冬の号の準備等々をされているようだったら、ちょっとお聞きしたいのですが、よろしくをお願いします。

議長（勝山 正）

本山産業企画室長。

（産業企画室長「本山 等」登壇）

産業企画室長（本山 等）

「移住体験ツアーの企画」でございますが、前回、応募者募集をいたしました。が、応募者がなく中止した経過がございます。

今回12月補正の方で改めて予算計上いたしまして、実施してまいりたいと考えておりますので、よろしく願いいたします。

（関 達夫 議員 挙手）

議長（勝山 正）

関 達夫 議員。

再質問

1番 関 達夫 議員

実施ということで、素晴らしい案ができるよう期待したいと思っておりますので、よろしく願いしたいと思っております。

それでは、次の項目に移らせていただきたいと思うのですが、「ふるさと納税」の関係であります。先ほど課長の方からご答弁がありましたし、昨日もこのことについてお聞きしたところでございます。

いずれにしても、3月末までということでございますので、500万円ほど足りなくなるのではないかという見通しもたくさんお聞きしたのですが、もしそういったことになると、当初予算の中から不足をすとなってくると、2億円ほどは基金として保有していきたいと、こういうお話も前に聞きましたけれども、このものを利用するとか使うとか、というようなことでお考えでしょうか、どうでしょうか。お聞きします。

議長（勝山 正）

丸山総務課長。

（総務課長「丸山寛人」登壇）

総務課長（丸山寛人）

昨日のご質問でも一部お答えしておりますし、重複するかと思っておりますが、ふるさと納税の財源、いわゆる寄付金を基金からの繰入れとして財源としておるのは、原則、令和5年度の財源として充てているのは令和4年度に頂いた寄付のものを財源としてでございます。したがって、今年度の寄付額が減少したとしても、これについては財源として既に予定しておるものですので、特に今年度の予算には影響はないかと思っております。

しかしながら、こういったものが減るとい形になりますと、次年度以降の財源として減少していくことは想定されますので、やはり、納税額を維持もしくは増えていくように努めることは重要かと思っております。

（関 達夫 議員 挙手）

議長（勝山 正）

関 達夫 議員。

再質問

1番 関 達夫 議員

ふるさと納税大いにご寄付とか協力いただける方が多くなれば、大変嬉しいわけでありませ

れども、返礼品が目的ではございませんが、手段でもあるわけであります。お米以外に、それぞれ出品、返礼品の取りまとめと申しますか、ご希望を聞いたりされているようでありますけれども、木島平村、特に美味しい牛肉があるわけでもございません。こういったことについても、農業振興と繋げて魅力ある一品を、食べ物に限らず、作り上げていくことが大事かなと思っておりますので、そういったこともご検討いただきたいと思います。

それと、先ほど来ありましたけれども、振興公社の事業の中へ800万円ほど、今年もこういう予算の中で見られているというわけでございます。先ほど来の湯本議員のところでもありましたけれども、畑地等々を簡易な土地改良等々で使い勝手のいいようにということ、産業課長も先ほどいろいろお話しされました。

いずれにしても、ここにも先ほど申し上げましたが、それぞれの田んぼ等々に補助金・交付金とは重複してはなかなか使うことができません。ただ、公社へこういったことの支援することによって、公社の方々にある力、機械と申しますか、そういったもので、田んぼを勝手に変えちゃ怒られますが、地主の承諾を得たりする中で、使い勝手のいい、土地にして利用いただくというのも、これ非常に大事じゃないかなと私は思います。

例えばでありますけれども、桂馬とびの農地があったりするわけですけども、これは車（しゃ）で動けるような使い勝手のいいようなふうにすると、また能率もいいしと思っております。

湯本課長もそこにおいでですが、若い農業者の方々との話合いの中でも、いずれにせよ、田んぼは何かなくなっていると、ただ、その付随すること畑地が何とも使い勝手が悪くて困るということでもあります。公社にこういったことを、少しずつでもいいから何とかお金を使っただいて、使い勝手の良いようにしながら、遊休耕作地、遊休農地をうまく使っていただく方法をぜひ考えていただければと思います。

前のときにも申し上げましたけれども、今ここでやらなくていつやるんだということもありますし、やっぱり将来に残す農業遺構として、土地改良とか、そういったものを大胆にやってくれるとこということが私は大事かなと思っておりますので、そんなようなことに対して、村長何かご意見あったらお聞かせいただきたいと思います。よろしく申し上げます。

議長（勝山 正）

日墓村長。

（村長「日墓正博」登壇）

村長（日墓正博）

先ほど湯本議員からもありましたが、荒廃地対策については、村の中で従来から大きな課題ということでもあります。特に畑については、傾斜があったり区画が小さかったりということで、なかなか作業効率が悪い、そしてまた、営農上もなかなか収益の上がる作物がやりにくいというような状況でもあります。そんなことで、村では機械化できる部分については蕎麦の振興を、特産品振興と併せて行っているわけであります。

ただ、それについてもできるものについても限界があるということで、先ほど産業課長も申し上げましたが、一旦公社が借り上げて、若干整備をしながら、新規就農者に向けてネギとか、ズッキーニとか、そういうものの作付けを少し増やしていければと思っております。

やはり、農家の皆さんがそれを使うということであれば、単に遊休荒廃地をなくすということだけでは農家の生活が成り立たないわけであります。生活が成り立つ形での荒廃地対策でないと、本来の意味がなくなってしまうので、その辺を兼ね合わせて、場合によれば先ほど申し上げましたが、簡易なほ圃場整備等も含めて、効率的な営農ができるようなことも含めてこれから検討していきたいと、現にやっている部分もありますが、更に取り組んでまいりたいと考えております。

(関 達夫 議員 挙手)

議長 (勝山 正)

関 達夫 議員。

再質問

1 番 関 達夫 議員

いずれにしましても、若い農業者が希望を持って農業ができるように農業生産上げて、持続可能な農業となるように、ぜひお手伝いしていただきたいと思いますので、よろしくお願いをしたいと思います。

つづきまして、「文学賞」のことではありますが、私も大変知識があるわけではございませんので、いずれにしましても、せっかくの文学賞、村の冠じゃないけれどもした文学賞でございます。益々発展できるように、関係者各位、ご尽力いただきたいと私は思います。

それで、「郷の家」でありますけれども、先ほど民間活力ということお聞きしました。観光施設等々、全てのものが民間活力、民間活力ということで進んできているわけでありますけれども、例えばでありますけれども、この郷の家の建物、プロポーザルだか何だかいろいろ提案を受けるときにありますけれども、受けるにしても基本的な考え方、基本的な条件といえますか、そういったものをもし村の方で持ちでしたら、ちょっとお聞かせいただきたいと思っています。よろしくお願ひします。

議長 (勝山 正)

日墓村長。

(村長「日墓正博」登壇)

村長 (日墓正博)

「郷の家」本当に農村らしい田舎の茅葺き屋根の家ということではありますが、正直言って、雪深い所にあってなかなか管理が大変というのが実態であります。そんなことで先ほど室長から申し上げましたが、民間での活用ということですが、村とすれば今ある姿、そしてまたこれまで取り組んできた中身を継承するような形での民間への移行ということを望んでいるわけであります。

まだ具体的になっているわけではありませんが、できるだけそういう形で残していけたと考えておりますので、よろしくお願ひ申し上げます。

(関 達夫 議員 挙手)

議長 (勝山 正)

関 達夫 議員。

再質問

1 番 関 達夫 議員

もう一つ先ほども申し上げたのですけれども、北側というか裏側の屋根であります。この冬持ちそうですか、大丈夫ですか、豪雪に。その方が心配だと思いますが、何か見てこられて、どうしようかこうしようかというふうにお考えはお持ちませんでしたか。

議長 (勝山 正)

日墓村長。

(村長「日墓正博」登壇)

村長 (日墓正博)

その辺についてはちょっと私もなかなかお答えできないわけですが、先ほど申し上げたとおり、冬期間の管理は村でやっておりますので、その辺の状況はしっかり把握しながら管理をしていきたいと思っております。

(関 達夫 議員 挙手)

議長 (勝山 正)

関 達夫 議員。

再質問

1番 関 達夫 議員

多くの豪雪とならないように、損害が発生しないように祈るだけでございます。

つづいて、「奨学金」のことですね。先ほど、今年度は6名の方、288万円の予算とお聞きしました。それと、返済が優先させていただいているので、遅延利息は取っていないということであります。

資金のあそこの中には日歩4銭とあるのですね。日歩4銭とすると200万円だと1日800円、月2万4千円ですね。1万円ほどの元金返済とすると、そんな元金は減らないと、そんなふうになってしまっていくのではないかなと思います。

私は、この貸付制度が悪いとか良いとかと申し上げているのではなく、先ほど言ったみたいに、若い人にぜひぜひ東京とは言いませんけれども、学費に代えて、大いに学んでいただいて村のために発展していただきたいと、こういう願いでいろいろと変なことをお聞きしているわけであります。

お借りになっている方々も、この一般質問等でまた奨学金のことを言っている、そんなことが変な気持ちにされるようでは私、大変村としても失礼ではないかなと思います。もうちょっとしっかりと管理をしていただきたいと、こんなようなふうに思います。

それと、これちょっと聞きたかったのですが、決算書、予算書のところに、繰越金の1,000円とあるんですが、この1,000円というのはどういう内容のものなのでしょうか。

議長 (勝山 正)

丸山総務課長。

(総務課長「丸山寛人」登壇)

総務課長 (丸山寛人)

繰越金について1,000円と位置づける当初予算でございます。これについては、次年度決算の数字が確定しておりませんので、繰越金を一律1,000円でやっている科目等が多いという状況ですので、確定前ということでご理解いただければと思います。

(関 達夫 議員 挙手)

議長 (勝山 正)

関 達夫 議員。

再質問

1番 関 達夫 議員

私はてっきり貸出金の残高1円評価で、資産査定して、返済が滞った分を償却するに具合いい金額になるかなと、こんなようなふうに資産査定されていると思ったもので、ちょっとお聞きしたところでもあります。

先ほど来申し上げていますが、なかなか決算書、予算書を見ても、実際、今いくら貸出ししているのかというような、わかんないですね。そして、基金によると条例でなっていますが、これ基金な

のでしょうか。それをちょっとお聞きしたいと思います。

議長（勝山 正）

丸山総務課長。

（総務課長「丸山寛人」登壇）

総務課長（丸山寛人）

基金でございます。

（関 達夫 議員 挙手）

議長（勝山 正）

関 達夫 議員。

再質問

1 番 関 達夫 議員

基金であるとすれば、貸し出してある金額等々については、どこか資産的などころの決算書なり予算書なりのどっかにちゃんと載っておりますでしょうか。

議長（勝山 正）

島崎子育て支援課長。

（子育て支援課長「島崎かおり」登壇）

子育て支援課長（島崎かおり）

奨学資金の基金の状況でありますけれども、現在、奨学資金の基金はございません。

議長（勝山 正）

ここで、暫時休憩とします。

（休憩 午前11時37分）

（再開 午前11時50分）

議長（勝山 正）

休憩前に引き続き会議を開きます。

丸山総務課長。

（総務課長「丸山寛人」登壇）

総務課長（丸山寛人）

それでは、先ほどの答弁で奨学資金の基金という形で「基金がある」というような内容の発言をさせていただきます。現時点、基金はございませんので、お詫びして訂正させていただきます。

（関 達夫 議員 挙手）

議長（勝山 正）

関 達夫 議員。

再質問

1 番 関 達夫 議員

それでは、再質問させていただきます。

いずれにしても、奨学金の実態といたしますか、現状についてご説明をいただければと思います
が、よろしく申し上げます。

議長（勝山 正）

島崎子育て支援課長。

（子育て支援課長「島崎かおり」登壇）

子育て支援課長（島崎かおり）

奨学資金基金の条例はございますが、現在村では、奨学資金貸付事業特別会計の歳入歳出予算に計
上して処理をしております。

（関 達夫 議員 挙手）

議長（勝山 正）

関 達夫 議員。

再質問

1 番 関 達夫 議員

それでは、改めて質問させてもらいますが、村で新たな施策として、奨学金返済支援事業というこ
とで、100万、200万円ほどの予算をされているようでありますけれども、1月からということをお聞
きしましたけれども、見込み、状況的なものはどうなのでしょう。教えていただきたいと思
います。

議長（勝山 正）

島崎子育て支援課長。

（子育て支援課長「島崎かおり」登壇）

子育て支援課長（島崎かおり）

今年度新たに計画しました「若者U I J ターン等奨学資金貸付支援事業」の取組の状況でございま
す。今年度の予算としましては、村内で就職された方に対して、1年間で収めた金額に対して上限15
万円を補助することとしております。その人数が8人で、15万円の8人で120万円、それから村内に
住んでいて、村外でお勤めしている方に対しては、1年間に償還した金額のうち10万円を上限に8人
としておまして80万円、合計200万円を計上しております。

なお、今回の12月の補正予算では、村内にお勤めの方、村外にお勤めの方、それぞれ4人ずつ計上
させていただいております、100万円の計上をしているところでございます。

議長（勝山 正）

関 達夫 議員。

再質問

1 番 関 達夫 議員

このことは、いずれにしても村内にお帰りいただく、あるいは村内から近隣にお勤めいただく
にしても、受け入れる側の村の体制、環境整備ですね。例えばこれといった産業もない、そんな
こと言っちゃいけないのですが、仕事場がない、長野あるいは中野等々へ通勤するにも冬の道が心配
とか、いろんなことが支障でこういうことが円滑にいかないのではないかなと思ったりします
ので、ぜひそういった若い人が村に戻ってお仕事ができるように、住むことができるように、
そういう環境整備をぜひぜひ今後も続けていっていただきたいと思
います。

そういったことに対して、村長、何かお考えがあったら一言お聞きしたいと思いますが、いかがでしょうか。

議長（勝山 正）

日基村長。

（村長「日基正博」登壇）

村長（日基正博）

ただ今ご質問いただいているというか、課題につきましては、それそのものが少子化対策の取組の一環にもなってくるわけであります。

その対策の中で位置づけをして、今回の奨学金返済支援についても少子化対策の一環でもあります。全体的な取組として、取り組んでいく事業の中で大事な雇用の場、また、住宅の問題とか、大事な問題だと捉えておりますので、いろいろまたご意見等いただければと思います。

議長（勝山 正）

以上で、関 達夫 議員の質問は終わります。

（終了 午前11時56分）

議長（勝山 正）

これで暫時休憩とします。

再開は、午後1時とします。

（休憩 午前11時56分）